

長野県 飯田・下伊那地区産地計画 (みなみ信州農業協同組合：飯田市)

1. 取組の概要

- 市田柿は、11月～12月に国内出荷の最盛期を迎えるが、年明けの市場価格が低迷する事があり、国内自給バランスを加味しつつ、中華系の春節需要を見据えた東南アジア輸出を強化
- 海外でのブランド保護のため、香港、台湾では商標登録し、シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナムへGIを申請。
- 商品名に地名が入っていることや、見た目触感等他産地と差別化しやすいメリットを活かし、生産技術を含めた総合的なブランド力の強化
- イタリア等欧米への新たな販路開拓の推進

輸出目標

対象品目：市田柿



輸出額：3億3,000万円

輸出量：150 t

対象国：台湾、香港、マレーシア、
シンガポール、タイ、ベトナム、
アメリカ、イタリア

輸出額：1億1,220万円

輸出量：51.41 t

対象国：台湾、香港、マレーシア、
シンガポール、タイ

現状（2018年）

目標（2022年）

輸出の取り組み背景

J A みなみ信州

長野県の南部 1 市 3 町 10 村を
エリアとする広域 J A

市田柿：500年以上の栽培の歴史がある地域の特産加工品

国内需要：12月のお歳暮、年始ギフトの需要
⇒年明け以降需要が低迷



国外需要：台湾始め中華系の春節（1月下旬～2月中旬）需要
⇒年明け以降需要が増加

輸出拡大により
国内価格を安定化

課題と解決策

海外におけるブランド力の向上と価格の維持

ブランド力の向上

生産

- ・ G I の海外での取得
- ・ 産地全体での栽培管理、生産・加工技術等の統一

賞味期限の延長

流通

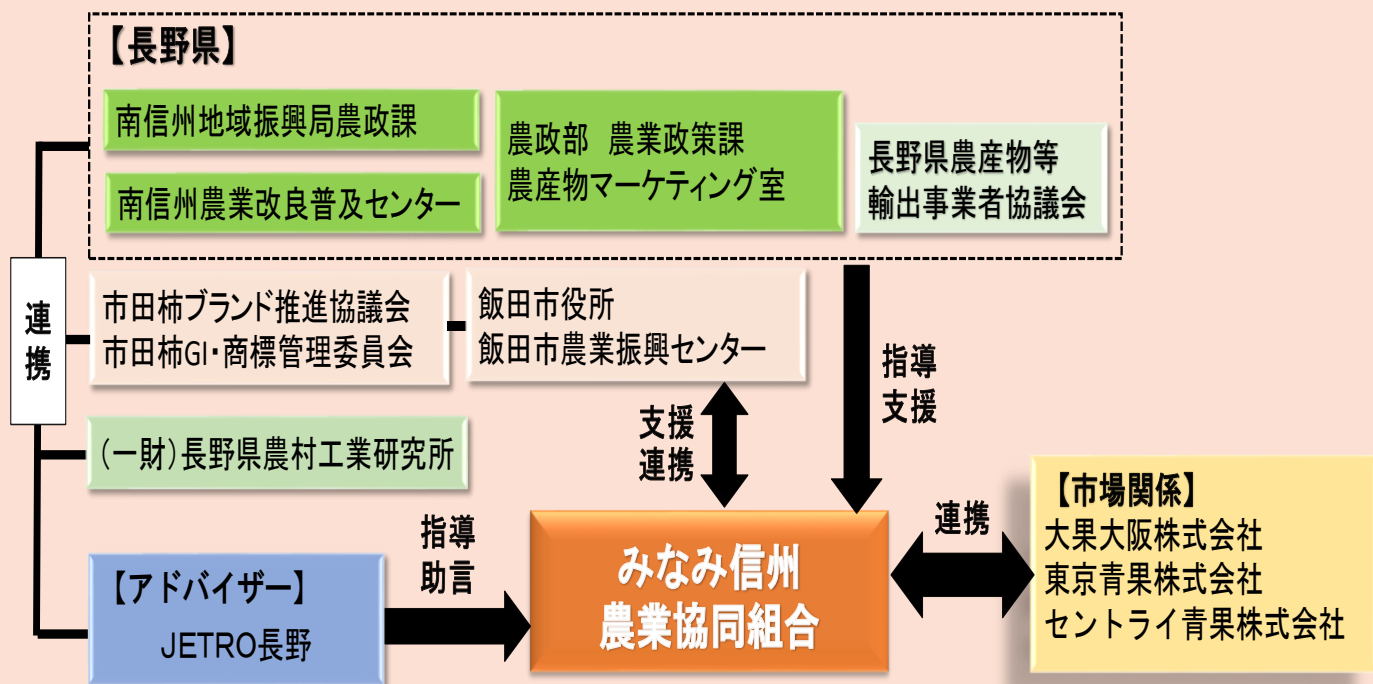
- ・ 賞味期限延長試験の実施
- ・ 成果を踏まえた商品づくり

供給価格の維持

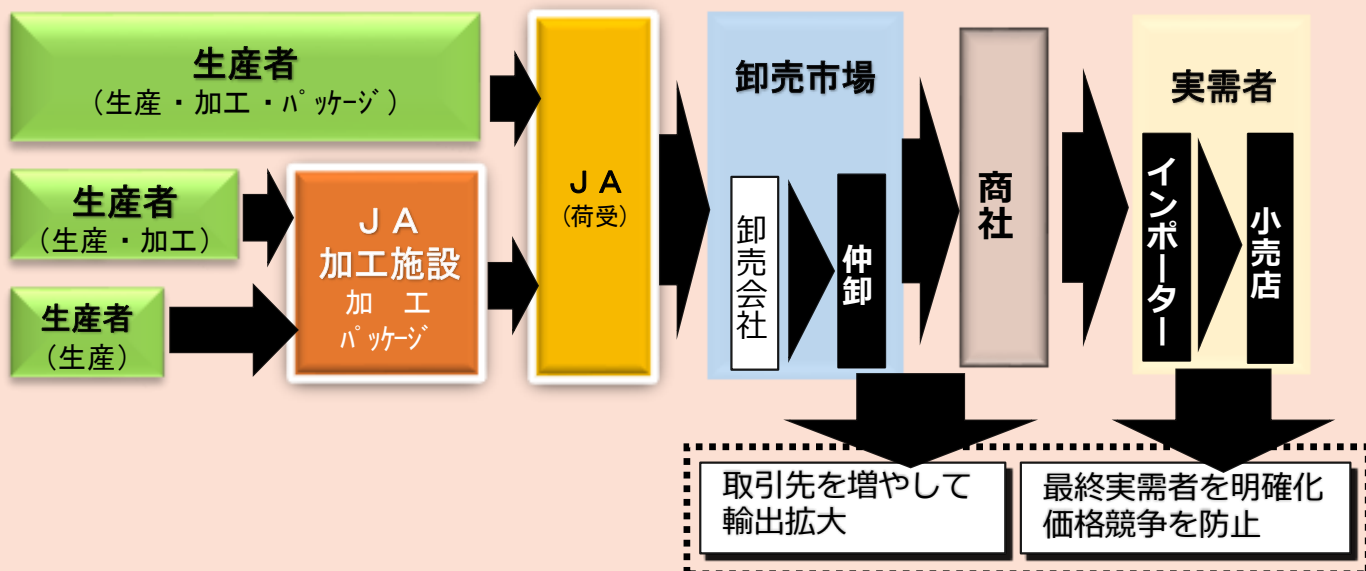
販売

- ・ 海外専用パッケージ、リーフレットの開発
- ・ プロモーション活動の実施

推進体制



商流



2. G F P グローバル産地形成の取組内容

計画策定

	4 - 6月	7 - 9月	10 - 12月	1 - 3月
計画策定			策定 ● 会議	★ 申請
輸出対象国の 現地調査				● 調査 欧州（イタリア）
パッケージデザイン の検討			デザイン 試作 ◆ 完成 台湾、香港	● 調査
新たな客層確保の 事前の打合せ				● 調査 台湾



台湾における調査



イタリアにおける調査

2. G F P グローバル産地形成の取組内容

グローバル産地計画の事業効果の検証・改善

年	2020年				2021年			
月	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
産地計画 検証会議	産地計画の実践と課題の検証							
				● 会議				● 会議
輸出対象国 の市場調査				● 調査				● 調査
				■ 報告				■ 報告
	タイ、ベトナム、イタリア				アメリカ			
新たな包装 資材の試作 等	デザイン 試作				デザイン 試作			
			◆ 完成	● 調査			◆ 完成	● 調査
	台湾				イタリア			
新たな購入層 の確保	プロモーションの実施と購買層の嗜好等調査							
				● 調査				● 調査
	台湾、香港、シンガポール、 タイ、マレーシア				シンガポール、タイ、 マレーシア			
事業効果検証 のため のプロモーションの 実施	プロモーションの実施と需要動向等調査							
				● 調査				● 調査
	台湾、香港、シンガポール、 マレーシア				ベトナム、イタリア			

3. G F Pグローバル産地計画のアウトプット

市田柿の輸出拡大

販路拡大・ブランド化

- ・生産者の所得向上と生産意欲の高揚
→担い手確保や遊休園地の解消
- ・市田柿生産の拡大
→加工、流通、販売等に携わる方々の雇用確保

地域の産業振興

海外でのプロモーション

- ・「農・食・観光・体験」が連携した南信地域の情報発信
→市田柿に加え南信州地域の認知度が向上
- ・2027年リニア新幹線が開通
→地域への来訪者の増

インバウンドの誘客増加